

2019 年度学内研究助成 成果報告書

① 報告者所属・氏名

生活文化学科 長崎 勤

② 事業名

発達障害児に対する「カルピス」づくりを通じたコミュニケーション発達支援プログラムの開発

③ 事業の目的

乳幼児から、中学生・高校生までの発達障害児に対して「カルピス」づくりをとおした、「コミュニケーション発達支援プログラム」を開発し、発達障害児者に適用し、その効果を検討することを目的にする。「コミュニケーション発達支援プログラム」の構成：以下の 5 つの Level で構成。

- ・ Level-I : 大人(母親・教師など)に「カルピス」をつくって楽しむ/自分で作って楽しむ (典型発達児 1-2 歳、以下同様) [自分に向かった活動]
- ・ Level-II : 相手(大人、友人)に「カルピス」をつくってあげて楽しむ。相手の要望に応じて、量を調整する (初期調整活動)。 (2-3 歳) [他者に向かった活動]
- ・ Level-III : 他者(大人、友人)の好みに関心持つ (2-3 歳) [他者の意図への関心] ・ 大人や友人が「カルピス」の種類、濃さ、量を選ぶ事に注目する。
- ・ Level-IV : 他者の好みを尋ねる。(非言語/言語) (3-4 歳) [他者意図の理解・自己調整活動]・ 大人や友人に、好む「カルピス」の種類、濃さ、量を尋ね、それに応じて、「カルピス」をつくる。濃かったり、薄かったり、多かったり、少なかったりした場合、濃さや量を調整する(自己調整活動)。
- ・ Level-V-1 : 決められた役割に従って、小集団で共同調理する。(5-6 歳) [協同活動 (受動)]・ 数名の小集団活動で、決められた「カルピス」づくり係、注文係、運搬係、ゲストなどの役割に従って、七夕祭り、卒業生を送る会などで「カルピス」・カフェを楽しむ。
- ・ Level-V-2 : 小集団でプランし、役割を決めて、皆で共同調理を楽しむ。(7-9 歳) [協同活動 (能動)]・ 七夕祭りなどの「カルピス」・カフェの企画(日程、場所、予算など)を皆でプランし、役割を相談しながら、分担し、「カルピス」・カフェを実行し、反省する。

④ 事業実績・研究成果 (具体的に)

- ・ 2019 年 7 月-2020 年 3 月 『カルピス』づくりによるコミュニケーション発達支援プログラム」を完成させ、福村出版から 2020 年 5 月に刊行予定で準備を進めている。
- ・ 2019 年 5 月-2020 年 2 月に発達支援プログラムを 7 歳の障害児に実施し、役割に従って「カフェごっこ」を遂行できるようになっていった。
- ・ 2019 年 11 月 11 日 実践女子大学常磐祭で、「なかよしカフェ」を実施し、『カルピス』づくりによるコミュニケーション発達支援プログラム」による支援を行ってきたダウン症 A 児および発達障害児 R 児、また典型発達児 2 名がカフェ定員として、学園祭参加者にカルピスを提供した。午後に、なかよしカフェフォーラムを開催し、70 名の参加者を得て、A 児の 5 年間の発達過程を紹介した。

・2歳～6歳の典型発達児20組の母子の観察を行い、「カルピス」づくりの発達研究を行った。2,3歳児では、自分の好みの飲料を他者に押しつけてしまうが、4歳児では他者に好みを尋ねることができるようになったが、5歳児では再び、自分が作れるようになったためか自分のつくった飲料を母親に押しつける傾向が見られた。

・以上の研究成果を図書、国内学会発表、海外学会での発表を行った。

・「カルピス」づくりによる発達支援プログラムを核にした、DVD教材を作成し、刊行した。

⑤ 研究成果の発表・活用（学会発表・論文掲載・地域連携・産学連携など）

<図書>

食育を通じたコミュニケーション発達支援―「カルピス」づくりによる支援プログラム―(2020)長崎勤・田島信元・吉井勘人(編著)福村出版(印刷中)

<学術論文>

吉井勘人・青嶋由美・森 秀昭・中込昭彦・長崎勤(2019)「カフェ」スクリプトを用いた自閉スペクトラム症児と仲間との コミュニケーション支援教育実践学研究,24,37-47.

<学会発表>

吉村彩瑛・青木雄一・井口素笑・吉井勘人・長崎 勤(2019)ASD 児への他者の関心に合わせた発話や行為遂行の支援―「希釈飲料を用いたカフェ」スクリプトを通して日本特殊教育学会第57回大会論文集,P5-32.

天野美緒・兵藤瑞穂・吉井勘人・長崎 勤(2019)包括的発達支援プログラムの開発と実践(6)―「カルピス」づくり場面での選択欲求質問をとおした「心の理解」の発達支援―日本特殊教育学会第57回大会論文集,P7-35.

<シンポジウム等>

大槻 美智子・若井広太郎・青木雄一・吉井 勘人・長崎 勤(2019)共同注意・スクリプトを感覚過敏の視点で捉え直す 日本特殊教育学会第57回大会論文集,自主シンポジウム6-3.

吉井勘人・竹内嘉恵・板倉達哉・若井広太郎・兵藤瑞穂・原満登里・長崎 勤(2019)特別支援学校における ASD 児の社会性の発達アセスメントと支援―関係性をアセスメントすることによる大人の変容の重要性―日本特殊教育学会第57回大会論文集,自主シンポジウム9-5.

<DVD教材>

長崎 勤(総監修)(2019)DVD5巻シリーズ: 発達の障害と特別支援教育 サン・エデュケーショナル

- ① 発達の障害とは何か? 長崎 勤(監修)
- ② 知的障害児の発達と支援 ―包括的発達支援プログラム― 長崎 勤(監修)
- ③ 人との関わり ―幼児期の知的障害・自閉症スペクトラム― 若井広太郎(監修)
- ④ 共に学ぶ ―学齢期の知的障害・自閉症スペクトラム― 吉井勘人(監修)
- ⑤ 社会参加に向けて ―青年期の知的障害・自閉症スペクトラム― 吉井勘人(監修)

<海外学会発表>

●2019年7月2-5日 ヨーロッパ心理学会(モスクワ)

Nagasaki,T., Yoshii,S. Hyodo,M.,& Amano,M.(2019) A facilitating developmental program of communication for children with developmental disorders using co-cooking activities. XVI European Congress of Psychology July 2-5 2019, Moscow, Russia(Poster,Accepted)

⑥ 今後の展開・継続性について

今年度もプログラム開発、障害児への支援プログラムの適用、典型発達児での発達研究を継続する予定である。